

徳川幕府が天下の諸侯の参覲交代制度を行ひ、交通の頻繁になつたことによつて、廣く江戸文化を日本全國に普及させ、それ以前の時代に於ける我が國の諸方の文化相との間に大に異なる有様を出現せしめた如きである。この關係が更に一步を進めて國外に及ぶ時には即ちいはゆる外國文化の攝取従つてその影響を見ることになる。ところで日本國內に於てすら相距ることの遠きに従つて互に異なる文化を發達せしめる位であるから、遠い外國、更に民族までも異にして居る外國との間に於て、その相異の著しいものゝあるべきことはいふまでもないことである。

さて我が國は四面環海の地理的事情によつて、遠い昔に於ては大陸諸國との交通は頻繁であつたとは考へられな  
いが、それが漸次發達して政治的關係をも生ずるやうになり、遂に神功皇后の三韓征伐といふ大事件を生起するこ  
とになつた。この事件によつて我が國威を彼の地に輝かしてからは、彼我兩者の關係はすべてに於て劃期的に密度  
を加へ、従つて半島文化の我が國に及ぼす影響も急に高潮を示すことになつた。凡そ文化の流れの高きより低きに  
つく有様は恰も水の流れると同様である。當時半島に流入して居つた支那文化は、總括的に考へて我が國の文化よ  
り高度の發達を示して居つたものであることはいふまでもない。従つて低き我が國から高き彼の地の文化を迎へる  
に急であつたことは、恰も近代に於ける我が西洋文化の攝取と同様であつたと考へて誤りが無い。さてこの劃期的  
半島文化輸入時代の初期に於て、記録の上に傳へられて居る最も注意すべき事項は、應神天皇の朝、日本書紀に依  
れば天皇の十五年、百濟から貢使として來朝した阿直岐が經典に通じて居つて、これが菟道稚郎子皇子の師となり、  
その翌年には更に阿直岐の推薦によつて王仁が來朝し、古事記によると論語十卷千字文一卷を上り、皇子はこの人  
を師として典籍を習はせられ、通達せられざるところないやうにならせられたと記されてあることである。天皇の